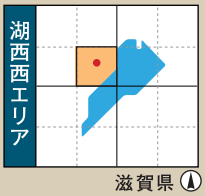
名勝
国指定

旧秀隣寺庭園（きゅうしゅうりんじていえん）

朽木村岩瀬　昭和10年12月24日指定



旧秀隣寺庭園は、現在、朽木氏の菩提寺である興聖寺の境内にありますが、元は、足利将軍を迎えるための城館、岩神館（学習シートNo.071）の庭園でした。庭を愛でるための建物は失われてしまいましたが、山々を借景とした古庭は、豪華な室町文化の香りを今なお語りかけてくれます。

当時のできごと	
1527年	柳本賢治 足利義晴を追い入京
1531年	管領細川高国敗死
1606年	江戸城の増築完成

足利将軍と庭園

庭園のある興聖寺は、もとは安曇川の対岸の山麓にありましたが、江戸時代に大火に遭い、朽木氏ゆかりの秀隣寺のあった、現在地に移ってきました。秀隣寺は、朽木宣綱が、慶長11年（1606)に、正室の菩提を弔うために、かつて足利将軍を迎えた岩神館の跡に建立した寺院です。

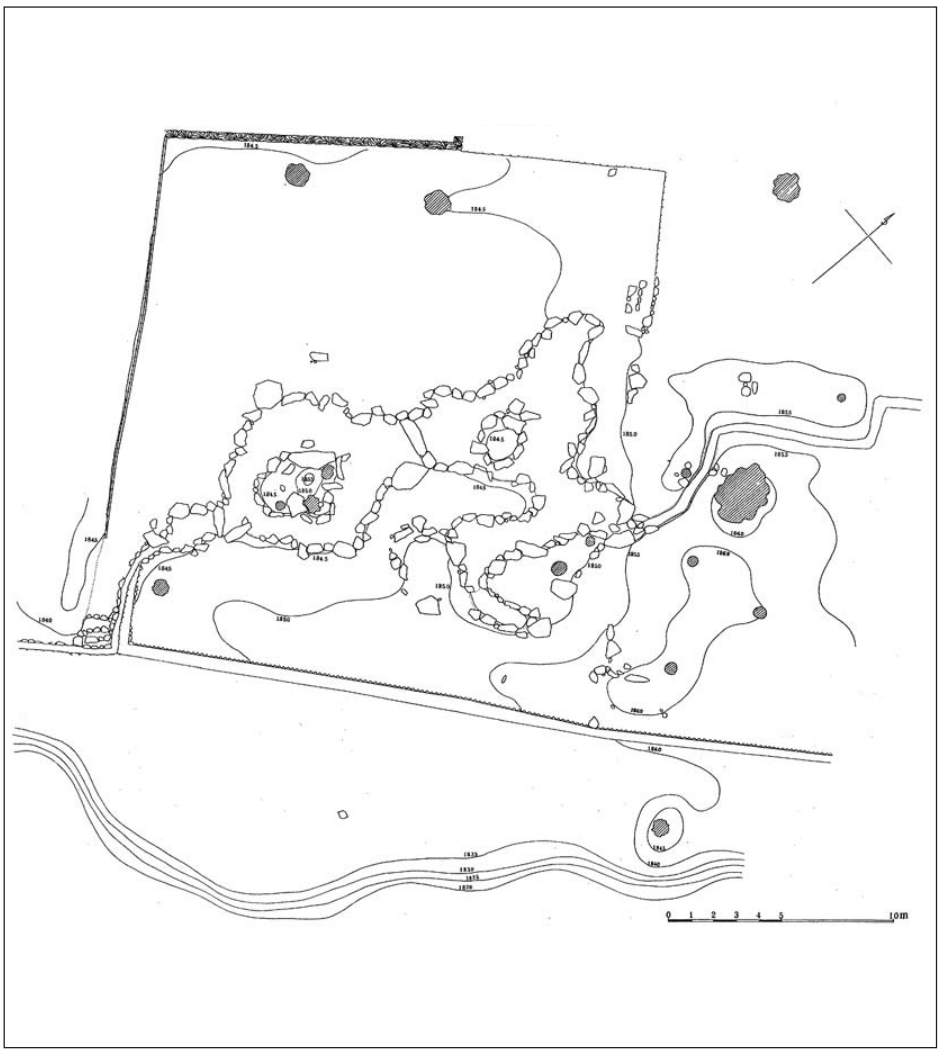
享禄元年（1528）の秋、室町幕府12代将軍足利義晴が、京都の兵乱を避け、朽木稙綱（たねつな）を頼りこの地に身を寄せます。稙綱は、将軍のため新たに館を造り（岩神館）、この庭園を造りました。作庭にあたったのは、管領細川高国と伝えられています。義晴はこの地に3年間余りも滞在し、13代義輝もまた、この地に身を寄せています。



旧秀隣寺庭園と借景の山々



旧秀隣寺庭園全景



旧秀隣寺庭園実測図

庭の構成

庭園は安曇川の段丘の縁にあり、眼下に流れる安曇川の清流、対岸の集落、そしてその背後に高く横たわる蛇谷ヶ峰を借景としています。

池泉鑑賞式の庭園で、左手の築山に組まれた「鼓の滝」からは、その名のとおり軽やかな音を立てて水が流れています。曲水で形づくる池泉には、石組の鶴石、亀石を配し、右手に自然石の石橋を架けます。後方の築山にも豪快な石組を配するなど、随所に室町時代の様式を見せています。



旧秀隣寺庭園の古写真

関連する文化財

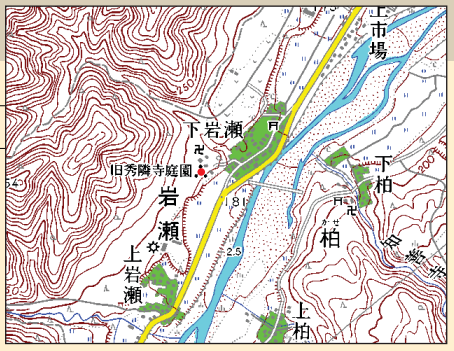
興聖寺木造釈迦如来座像（重文）	興聖寺の本尊。木造の座像で像高87.3cm。平安時代の作
岩神館跡（朽木村）	中世朽木氏の中心的な館跡。室町幕府将軍が京の戦乱をさけて滞在
池ノ沢庭園跡（朽木村）	安曇川を見下ろす段丘上に残る庭園遺構。発掘調査の結果、類例の少ない鎌倉時代の庭である可能性が高まっている

もっと深く知りたい

朽木村郷土資料館　☎0740-38-2339　高島郡朽木村野尻478-22

朽木村教育委員会　☎0740-38-2324　高島郡朽木村市場792

旧秀隣寺庭園へのアクセス　ＪＲ湖西線安曇川駅または堅田駅下車



【参考文献】〔日本庭園史体系〕社会思想社　〔滋賀の美 庭〕京都新聞社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月